教科等研究会（中学校英語部会）
平成３０年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

英語を使って何ができるようになるかを明確にした授業づくり
～視聴覚資料や学習シートの効果的な活用～

２　研究経過

第１回	第２回	第３回	第４回
期日　５月２４日（木） 人数　２５人 場所 木山中学校	期日　８月３日（金） 場所 木山中学校 内容　研修会	期日　１１月２０日（火） 場所　矢部中学校 授業者　安枝　優教諭	期日　１月２４日（木） 場所　御船中学校 授業者　冨永裕喜教諭

３　研究の概要

（１）　研究の内容

今年度は「英語を使って何ができるようになるかを明確にした授業づくり　～視聴覚資料や学習シートの効果的な活用～」という研究テーマのもと、研究、実践、授業改善等を行った。

①　第１回教科等研究会

組織づくりを行い、学年部会で組織を構成し、研究授業の担当学年等を決めていった。

②　第２回教科等研究会

昨年度は小中合同で研修会を実施できたが、今年度は中学校単独での研修会になった。２０２０年度に実施される県中英研上益城・宇城大会に向けて、研究のあり方や組織づくりについて意見を出し合った。その後は学年部会に分かれ研究授業について事前研究会を行った。

③　第３回教科等研究会

矢部中学校の第１学年で授業研究会を行った。生徒たちが進行形を学習する中で、学んだ内容を即興で英語を表現し、発表を行うという授業を参観した。その後の研究会では、ＣＡＮ－ＤＯリストの表記方法について、多くの質問や活発な意見が出され、有意義な会となった。具体的には、指導と評価の一体化を図るためにＣＡＮ－ＤＯリストを作成し、「英語を用いて何ができるようになるか」を明確にし、毎時間自己評価を生徒たちに行わせることで、授業への積極的な取組を喚起させたり、単元のゴールとなるＣＡＮ－ＤＯリストを達成させるための手段として、ポートフォリオ学習の要素を取り入れ、生徒が言語活動の際に使用する表現を意識的に活用できるように指導したりする工夫について議論を深めることができた。

④　第４回教科等研究会

御船中学校の第２学年で授業研究会を行った。ＡＬＴのＴＴによる研究授業は、学習訓練がしっかりされており、テンポよく授業が進んでいき、生徒が発話する機会が非常に多く設定された授業であった。　※詳細は、４実践事例にて紹介

（２）成果と課題

○　上益城郡教科等研究会の全体研究テーマに沿って、生徒が「分かる・できる」「楽しい」授業づくりを意識した授業の工夫や指導の工夫がしっかりと見られた。特に英語を使って何ができるようになるかを明確にした授業づくりを行う中でＣＡＮ－ＤＯリストの表記方法について、年間をとおして議論し、考えを深めることができた。

○　部会事前研究会を行い、指導案を検討したり、よりよいワークシートの教材を開発したりすることは、参加者全員がたくさんのアイデアを共有できるので、自分の授業実践や改善に生かすことができて大変有効である。

●　小学校での英語教育が本格化していく中で、「小中連携」は非常に欠かせないものであるが、今年度は小学校外国語活動部会との合同夏季研修会が実施できなかった。小中連携の機会となるので、小中合同の研修を行うのが重要と考える。特に１年担当者は、小学校の外国語活動とのつながりを考えた授業づくりの観点で参考とすることが多いので、小中学校の英語学習を通して、児童生徒につけたい目標を共有したりするなど、小中連携の機会をしっかりと持つこと大切だと考える。

●　「このプログラムが終わった時には英語でこんなことができるようになる」という明確な、単元を通しての授業デザインをもって指導する授業実践を行わなければならないと考える。

●　小中連携をどのようにして取り組んでいくのか、具体的に協議していかなければならない。

● 年４回の教科等研究会の中で、２回の研究授業発表と授業研究会を行っている。組織は学年部会で作るため、今年度は３年部だけ研究授業が実施できなかった。次年度はその残りの学年部が主体になってより細かいＣＡＮ―ＤＯリストの作成を行わなければならない。

● 新学習指導要領について、個人でしっかりと読んで理解していくことも大事だが、部会としても内容に触れながら、今後の研究をどのように行っていくのかを考えていかなければならない。

４　実践事例

（１）授業の概要

第２学年「ＰＲＯＧＲＡＭ１０」の単元は、登場人物である桃子とマイクがホームステイで体験した文化の違いについて会話をしている場面を題材としている。オーストラリアと日本の文化を比較することによって、多様な価値観や文化の相違を認め、国際理解を深めることができる題材である。事前の話し合いの中で、「この授業で何ができるようになるのか」ということを議論した。今回の授業では more や the most を用いた比較表現、および better や the best を使った比較表現を用いて「理想の給食メニュー」について表現する活動を取り入れた。また、授業中は可能な限り英語を使用することに尽力しているが、英語を苦手としている生徒への声掛けについては研究の途中である。

【授業研究会から】

①　自評

今回の授業は、教師側も生徒側もできるだけ英語を使ったり書いたりするような授業を心がけた。クラスの中には英語を苦手としている生徒もいるが、できるだけ英語で授業を進め、生徒が慣れるようにしている。新しい学習指導要領では英語で授業をするとなっているが、英語が苦手な生徒もいる中でどのようにするのが良いのか悩んでいる。また、ＡＬＴにアメリカの給食についてプレゼンテーションソフトを使って発表してもらった。英語が苦手な生徒もわかるように、写真を使ったり、シンプルな英語を使ったりして説明するようにした。スピーキングの評価を先生方はどのようにされているのか、アドバイスがあればぜひ聞かせていただきたい。

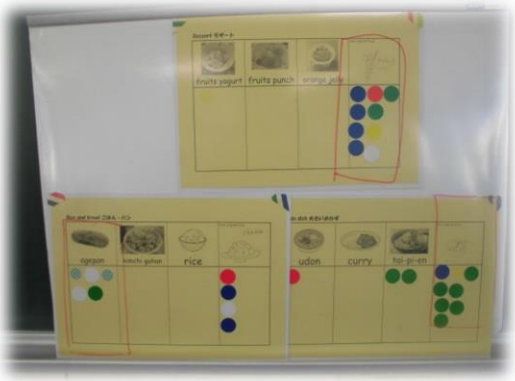
②　質疑

◇授業の最後に使われていた道具（発表用ホワイトボード）について聞きたい。

・「まなボード」で、自分の作品や書いた物を挟んで、発表したり、黒板においたりしている。他の教科でもよく使われている。

◇指導案の中に明記されていた「クラゲチャート」と「熊手チャート」について教えていただきたい。

・去年から御船中学校が研究の一環として使っている。クラゲチャートは時系列に読み取ったり、道徳の授業で良かった所を書いてまとめたりして使っている。英語ではリスニングでも使ったりしている。



◇生徒たちは落ち着いていて、英語での説明もよく理解していた。単元ゴールの姿はもっと具体的な事を書いた方が良いのではないか。

・今日のゴールだったら、２つのことを比較して言えることで、こういうことができるようになるとより具体的な生徒の姿を最初に伝えることで、生徒のモチベーションを上げたりすることができるのではないか。

②　協議

・ALT のアメリカの給食のプレゼンは、生徒の興味が高まり良かった。
・生徒が英語を使う時間がかなり確保されていて、英語の使用量が多かった。
・流れがスムーズで丁寧であった。
・活動が役割分担がしてあったので、みんなが活動に参加することができた。

（改善点）

・最後のまとめの時間が足りなかったのが残念だった。
・新出表現の定着の時間がもっとあっても良かった。
・評価と活動がより一致していると良いと思った。
・生徒にも評価の基準を伝えることで、もっと良い活動になるのではないかと思った。

（２）学習指導案

第２学年１組英語科学習指導案

日時：平成３１年１月２４日（木）　第５校時
場所：２年１組教室
指導者：冨永 裕喜
ＡＬＴ：ターパン・クリストファー

１　単元名　Program10　So Many Countries, So Many Customs　（ SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 ）

２　単元について

（１）　本単元は３つのパートにより構成されており、いずれも登場人物である桃子とマイクがホームステイで体験した文化の違いについて会話をしている場面を題材としている。オーストラリアと日本の文化を比較することによって、多様な価値観や文化の相違を認め、国際理解を深めることができる題材である。

新出言語材料としては、more や the most を用いた比較表現、および better や the best を使った比較表現を学ぶ。比較の表現を学ぶことによって、自らの身の回りの生活や好みを相手に伝えたり尋ねたりすることができるようになる。また単元を通してそれぞれの用法を身に付けさせ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけることができるよう指導をする。

（２）　本単元の系統観は次の通りである。

＜小学校＞	＜１年生＞	＜２年生＞	＜３年生＞
Lesson4 I like Lesson5 What do you like?	Program2 be 動詞 Program3 一般動詞 Program7 疑問詞	Program9　比較級、最上級 Program10 比較級、最上級	Program9 Reading

（３）　生徒の意識調査から、単に受験や成績のためだけでなく、英語を「将来役に立つもの」「英語を使って何かをしたい」と考える生徒が多くいることが分かる。加えて４技能の中でも「話すこと」の力を伸ばしたいと考えている生徒が多くいるため、場面設定や目的をはっきりとさせた話す活動を取り入れ、実践的なコミュニケーション能力を育成したい。加えてレディネステストの結果より、疑問詞を用いた疑問文の定着ができていない生徒が多いため、単元を通して復習をしていく。

３　単元の目標

さまざまな比較表現の構造を正しく理解し、自分の好みや考えを、まとまりのある英文で伝えることができる。

４　本時の学習

（１）目標　better や best を使って、積極的に相手の好みを尋ねたり、説明したりすることができる。（関心意欲）

単元ゴールの生徒の姿
比較の表現を用いて、自分の好みや考えをまとまりのある英語で伝えることができる生徒

（２） 展開

過程	学習活動	評価及び教師の手立て	備考
導入	1 warm up ①Greeting ③ Warm up	○元気良くあいさつをし、学習に対する意識を向上させる。 ○和やかな雰囲気で授業を始め、生徒の授業への参加を促す。	会話カード
	今日のめあて 理想の給食メニューを調べよう！		
展開	2 Listening and Practice ① 教師とALTの会話を聞いたり、スライドを見たりして、新出文法について気付かせる。 ② 比較を用いた英文を練習する。 【一斉/ペア】	○生徒やALTとのインタラクションから新出文法を引き出す。 ○一斉で行った活動をペアでも行い、繰り返し練習する。 ○理解を確認するために多くの生徒を指名して発話させる。	テレビ ワークシート
	3 Speaking ① インタビュー活動を通し、最も好きな給食メニューを尋ねる。 ② インタビュー活動の結果を班の中で共有する。 【ペア/グループ】 【言語活動】（設定の理由） インタビュー活動を行う過程で新出文法を使用させる機会を作ると同時に、相手や状況を意識した実践的コミュニケーション能力を育成する ③ 理想の給食メニューを学級全体に発表する。	○活動時間を十分にとる。 ○インタビュー結果が視覚的に分かるよう、ワークシートにシールを貼らせる。 ○ワークシートを見せながら班員にインタビュー結果を伝える。 ＜Ｂ＞比較表現を使用し、積極的にコミュニケーションをとろうとしている。（コミュニケーションへの関心意欲態度） ＜Ｂに至っていない生徒への手立て＞ ・机間指導を行い、個別に支援する。 ・ヒント例文を見せて支援する。	ワークシート
終末	4 Writing practice 全体で発表したメニューを比べ、自分だったらどちらの方が好きか英語で書く 【個別】 5 Summary	○全体で発表されたメニューを比べ、自らの好みを比較表現を用いて英語で書かせる。 ○学習した内容を振り返る。	
	まとめ：生徒が書いた英文を用いて本時の振り返りを行う		